



題字 井口 文章
再刊 第346号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2020

みんなでつくる
錦城高校新聞

今号から敬称を「さん」に統一します。
詳しくは裏面で！
一面：新生徒会役員による座談会！
二面：さん・くん問題 錦城生の意見は？

新たなステップへ 始動する生徒会

公約実現目指し 目標語る

生徒会では新たな代への引き継ぎが行われた。今回はそれぞれの公約や会則改正に向けて動き始めた新生徒会の5人と中央委員の2人に集まってもらい、座談会を行った。

生徒会長

生徒会長の中村心咲さん(2F)は前生徒会の印象に残ったことについて「資料が見やすく、段取りが良かったところ」と話す。新生徒会を



“生徒と距離が近い生徒会”を目指しスタートを切った

「厚い皮膚より速い脚を(戦車は装甲の厚さよりも移動速度を重視したほうが良いという考えのたとえ)」という言葉を用いて「引き継ぎだけでなく、行動力のあるものにしてほしい」と話した中村さん。

「特例として、行事の際の写真撮影と連絡に使えるようなルールを作りたい」と語る。公約としては「ゼンジン自販機の設置と行事の時の携帯・スマホ使用ルールの見直し」を挙げている。

その上で錦城生に向けて「公約達成のためには生徒会の努力だけでなく、ルールを守る、意見箱に多くの意見を入れるなど、皆さんの協力が必要だ」と話した。

監査委員長 監査委員長の久保摩美さん(2E)は前生徒会から引き継ぎたいことについて「分かつていくことがあれば丁寧な教えられたい」と話す。錦城生が活発に意見を

出すように、意見箱を気軽に使うようにしてほしいと意気込みを語った。

生徒会副会長 藤田和望さん(1I)は、代替わりによる引継ぎの際に先輩の説明を受ける。この生徒会をさらに良くしたいと触発された。

また、スマホ使用に関する校則改正は生徒会長の中村さんにも公約に挙げている。生徒会としては最終的に先生や生徒が納得できるような内容で方向性を定めてほしいと藤田さんは今後の方針についても言及した。

動き出す 2年修学旅行委員会

合同委員会発足

57回生の関西方面への修学旅行について話し合いが進んでいる。11月5日(木)にホテルで行われた修学旅行委員会とHR委員の合同委員会では、主に修学旅行委員の今後の活動内容が発表された。

まず各クラス4名ずつからなる修学旅行委員会、しおり・PR係2名と企画・学習係2名に分け、係について説明がなされた。しおり・PR係はしおりや新聞作成などのPR活動を担当する。また、企画・学習係は企画の中心を担い、クラス別行動と班別行動の取りまとめや事前学習のサポートを行う。今後修学旅行委員の活動が本格化する見込みだ。

2日目以外の日程も明らかになってきている。1・4日目は、修学旅行の

クラス	行き先
A	神護寺・嵯峨野(竹林・天龍寺)嵐山エリア
B	淡路島・淡路鳴門うずしおクルーズ
C	淡路島・淡路鳴門うずしおクルーズ
D	淡路島・淡路鳴門うずしおクルーズ
E	姫路城と書写山門教寺
F	姫路城と書写山門教寺
G	淡路島・淡路鳴門うずしおクルーズ
H	淡路島・淡路鳴門うずしおクルーズ
I	淡路島・淡路鳴門うずしおクルーズ
J	なんばグランド花月・大阪城
K	姫路城と書写山門教寺
L	神護寺・嵯峨野(竹林・天龍寺)嵐山エリア

「会則改正特別委員会」とは？

生徒会会則の改正のために様々な活動を行っている「会則改正特別委員会」。8月10日(月)に発足して以来、会則改正に尽力している。現在は中央委員の1年生2人で活動中だ。

現在の生徒会会則には存在しない委員会に関する記述が存在し、今ある委員会についての記述が存在しない場合がある。このような誤りを含んだ条文を筆頭に、現状に即していない会則の改正に取り組んでいる。また、生徒会副会長就任まで会則改正特別委員会の委員長を務めていた藤田和望さん(1D)は「今回生徒議会で承認され、投票を経て削除された第37条く会長辞任による解散」などの、やりすぎと感じられる条文もいくつかあるので、それらに関する改正も行います」と話した。

会則改正特別委員会の普段の活動は生徒手帳を読んで委員同士で話し合い、先生に提案するという形で行う。その際に条文に大きな変更がないものから話し合いに取り組みという。その後は改正案について中央委員で内容を確定し、生徒議会で承認を行うという流れだ。

藤田さんは錦城生へ向けて「生徒会会則に目を通したくない生徒もいると思うので、一度見てほしい」と語る。また、その際に疑問に思ったことがあれば中央委員や会則改正特別委員会に報告してほしいという。さらに、中央委員の1年生3人と監査委員で活動していた会則改正特別委員会は、生徒会の代替わりと藤田さんの生徒会副会長就任の影響による人数の減少を受けて、藤田さんは「中央委員は常時募集をしているので、興味を持った人はぜひ入ってほしい」と呼びかけた。



「生徒会会則に目を通してください」

不安な部分もあるという。それも踏まえて、去年までの錦城祭の話を先輩たちから聞く機会を設けたいと話した。

生徒会中央委員 副生徒会長からの会則改正特別委員会委員長の引き継ぎ、会計や書記など、生徒会のサポートをこなしたり、意見を出したりする中央委員のうち、二人も、新生徒会始動に向けて熱意を示した。

大坂瑠々さん(1G)は、今年ある仕事を実現させてから新しいことに取り組みたいと意気込んだ。

斎藤小那実さん(1K)は、生徒会と生徒の距離が狭まるように意見箱の活用を入れたいと話した。

「生徒と距離が近い生徒会」を目標に掲げ始動した新生徒会。引き継いだことや会則改正、それぞれの公約を達成するべく邁進していく新生徒会に注目していきたい。

錦城祭実行委員長 錦城祭実行委員長の長屋碧さん(1D)は、前錦城祭実行委員会の様子について「何か気になる点があったときに相談しやすく、明るい雰囲気でした。これからも引き継いでいきたいと思っています」と話した。また、来年の錦城祭開催に向けて「伝統を引き継ぎつつ、今年できなかった分楽しめたい」と意気込みを語った。

一方で今年「ミニフェス」という形で行われたため、従来の錦城祭の開催に向けて

「生徒と距離が近い生徒会」を目標に掲げ始動した新生徒会。引き継いだことや会則改正、それぞれの公約を達成するべく邁進していく新生徒会に注目していきたい。

「生徒と距離が近い生徒会」を目標に掲げ始動した新生徒会。引き継いだことや会則改正、それぞれの公約を達成するべく邁進していく新生徒会に注目していきたい。

「生徒と距離が近い生徒会」を目標に掲げ始動した新生徒会。引き継いだことや会則改正、それぞれの公約を達成するべく邁進していく新生徒会に注目していきたい。